

保温ドレープ (サーマドレープ™) について

新東京病院麻酔科 小西晃生, 菊池恵子

呼吸管理においては体温管理も重要な役割を果たす。低体温によってもたらされるシバリングは酸素消費量を正常の2～5倍増加させ、重要臓器、特に心、肺、脳への酸素供給不足を招き、炭酸ガスの産生をも増加させる。また、代謝性アシドーシスや末梢循環不全を引き起こし、その結果、対処が遅ければ心不全、呼吸不全あるいは心筋梗塞へと進展する可能性があり、たかが温度と云って馬鹿にすることはできない。また、新生児、小児にとっては低体温は致命的な障害となりかねない。すなわち、全身管理にとって温度管理とは原疾患に対して余計なストレスを与えないための重要な管理の“ツボ”といえるかもしれない。

保温、加温の方法には現在、加温ブランケット、温風式加温装置、保温ドレープ、人工鼻、輸液加温器あるいは赤外線ウォーマーなど様々な種類の機器、器材がある。その中でサーマドレープ™は最も簡単で有効な保温のための小物である。サーマドレープ™はアルミニウム、プラスチック、不織布の3層構造からなる反射性覆布で、おもに輻射、対流による熱損失を効果的に防ぐ、必要な身体の部位を被覆するだけでよい。図1、2は非開腹術(股関節置換術)と開腹術(子宮摘出術)における直腸温の変化を表したものであるが、いずれにおいてもサーマドレープ™を用いて被覆した方が温度の低下が有意に抑制される¹⁾ことが分かる。末梢温の低下も軽微で、術後のシバリングの発生も減少させ得る。経済的にもサーマドレープ™1枚が手術用ガウン1枚あるいは気管内チューブ1本に匹敵し、非常に安価であるし、電気、レーザーに対し非伝導的で、放射線を透過させるため、あらゆる患者のあらゆる部位に安全に使用できる。さらに温風式加温器や輸液加温器などと併用することでより優れた効果をもたらす。もちろん手術室だけでなく集中治療室あるいは一般病棟でも大いに活用できる。ただ、うつ熱による高体温を引き起こす可能性があるため、その点は気をつけなければならない。

サーマドレープ™は1枚のドレープで体温保持効果が著明であり、体温管理上非常に有用である。スグレ物のひとつと思う。我々は積極的に使っている。

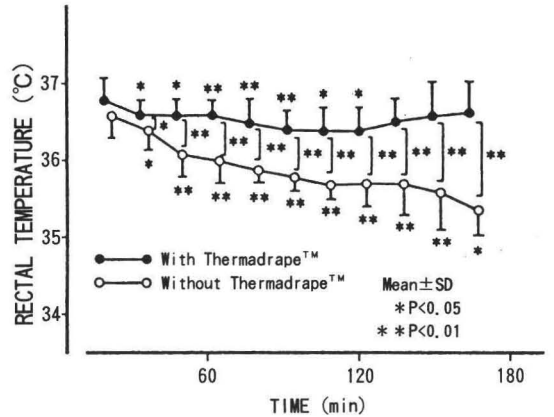


図1 股関節置換術における直腸温の変化

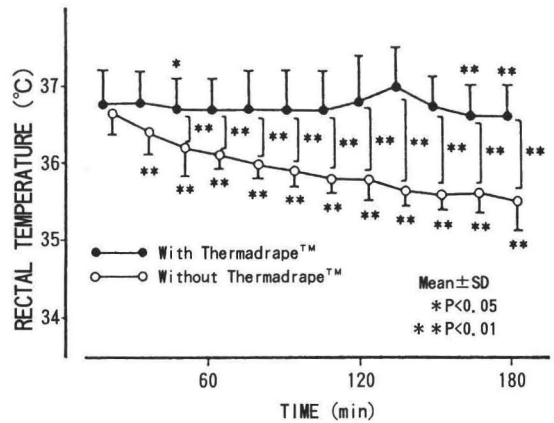
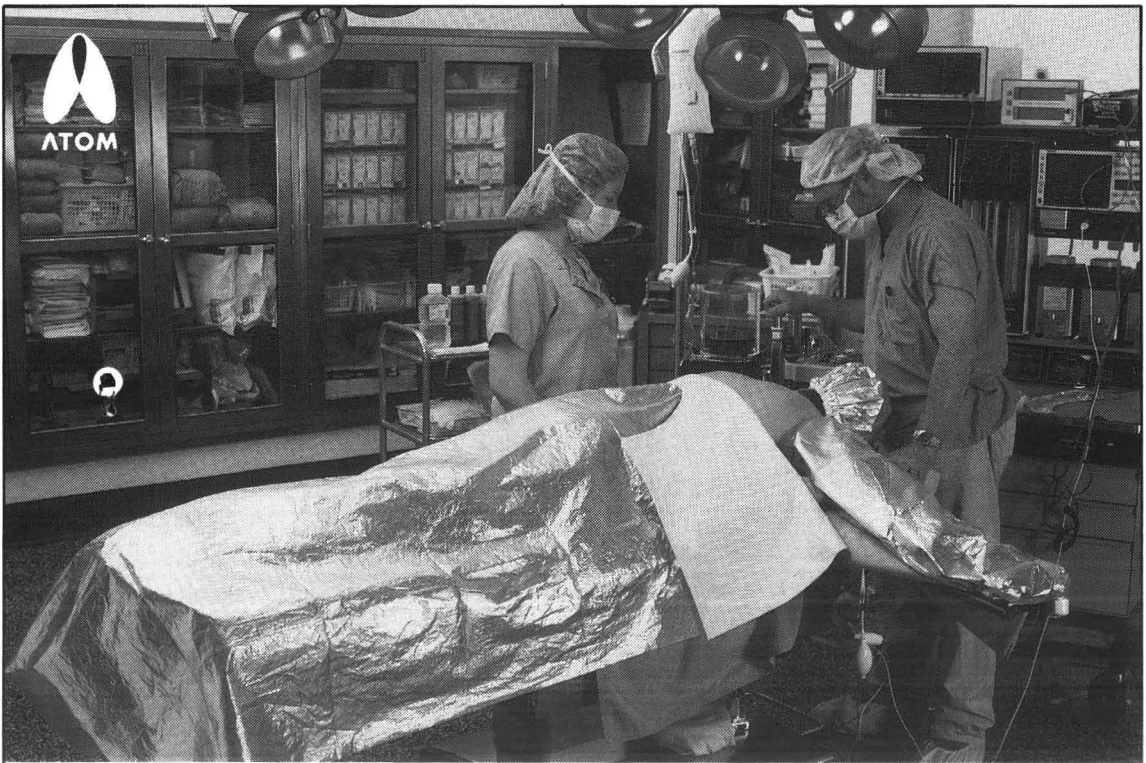


図2 子宮摘出術における直腸温の変化

参考文献

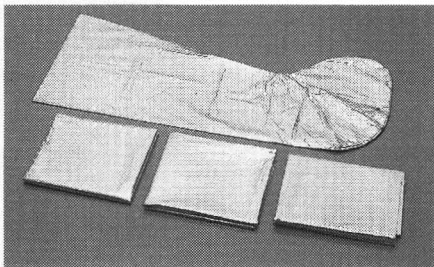
- 1) 五十嵐孝, 矢内裕宗, 小沼利安ほか: 体温低下防止覆布サーマドレープ™の有用性 - 側臥位及び碎石位手術において - . 医科器械学 63:27-32, 1993



術中の**熱損失**は**85%**が、
輻射と対流によるもの。
保温ドレープは2つの**熱損失の抑制**に
とても**効果的**です。

※保温ドレープは

①体温低下によるストレスを抑えます。②手術の予後にも効果的です。③とても経済的です。



保温ドレープ

〈体温低下防止ドレープ〉

下肢用/ブランケット(S)(M)(L)

アトムメディカル株式会社

クリティカルケア事業部 〒113 東京都文京区本郷3-18-15 ☎03-3815-2491